



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和7年 3月 14日
つばさだより 第14号

「小集団指導(グループ指導)」で学び合う場面 2

前号に引き続き、小集団指導場面の紹介をします。自己認知、他者認知、状況理解、行動調整、状況共有など子供たちの個々の課題は多岐に渡る指導内容も、個々の実態や学年に応じて指導のめあてのレベルが変化していきます。今日は4年生の場면을簡単に紹介します。

今回のグループ指導は「折り合い」「みんなで楽しく」が大きなめあてです。演習の内容は小集団の全員が「相談」の中で意見を出し合いながらその場面ごとに行動の意思決定をし、集団の行動に反映させていく「しまわたり」という演習です。内容は教室の端と端に島に見立てたマットを敷き、コルクのブロックを跳び石に見立てて、ブロックから落ちないように協力しながら移動していくというものです。難易度や詳細なルールはグループの成長度合いも考慮に入れて設定しますが、「全員がA島からB島に渡る」「意見を出し合う」「折り合って進める」という状況を基本的に設定します。この設定が指導の「枠」になります。

演習を始めて見えてくる課題はたくさんあります。「意見は誰が言うのか」「意見をまとめるのは誰か」「意見の言い方は適切か」「みんなに伝わるように話しているか」「自分の意図は適切に相手に伝わっているか」「相手への態度は適切か」など、おおよそ普段どの集団遊びの中にもいろいろな要素として入っているものですが、小集団指導においてこの部分を必要に応じてクローズアップしていきます。

このグループは最初なかなかうまくいかず、互いが演習に参加する姿勢(やる気・程度)をめぐって対立する場面もありました。しかし、その点を2週目に振り返りながら行くと、お互いに反省し合う場面が出てきました。4人のメンバーの意識が2対2で別れてしまった前回から、全員に意見を伝える。誰かの意見を確認する。声をかけ合う。たくさんの改善場面が出てきました。そしてさらに前回よりも良くなっていたのは相手に対しての意識です。コルクのブロックに個々にバランスをとって乗っかっていくわけですが、A君は自然にバランスを崩すB君に手を差し出していました。また、「早く！手をつないで！」と声をかけてくれる場面もありました。そうすると、この4人の意識がこの自然に相手を意識するレベルに高まっていくのがわかります。

4人が一つの目的に向かう「意識」がだんだん具体的な行動として変化していきます。グループ指導の内容としては3週間、3時間くらいの内容を設定していましたが、3週目でこのグループはこの演習を成功させることができました。

振り返りの場面では、週を追うごとにどのような行動や意識の変化があったか、必要に応じて言葉を補いながら整理しました。子供たちからは「みんなが参加する気持ちがあった。」「声をかけ合えたのがよかった」「～君が助けてくれた」等の感想が出てきました。グループとは言っても、メンバー的には大の仲良しという時間が常に続くわけでもありません。そこには自分の事情と「折り合い」をつけるというスキルも当然必要となってきます。日々の生活や学習、遊びの中に必要とされるこの課題をみんなで学び合う時間となった今回のエピソードでした。

